

キリスト教の実践と人道支援 —— ウクライナ難民受け入れの一例

ウクライナ難民支援の活動をしている、ポーランド出身のメルクレイン先生にお話をお伺いしました。今なお戦火の続くウクライナの人々を覚えて、私たちもお祈りしましょう。

総合文化政策学部 文化創造マネジメント研究科教授

メルクレイン・イヴォナ [ポーランド・ワルシャワ出身]



私が担当している国際比較文化論という研究科授業に、時々社会人の方々も参加しています。豊富な実務経験をしている人、様々な文化活動、社会活動をしてきた面白い人に出会うことがあります。何人が印象に残っていますが、AAR Japan（難民を助ける会）の会長、吹浦房子さんは確かにその1人です。1970年代のインドシナ難民の時代から難民支援活動を続けてきた方で、その報告を研究課題としてまとめようと文化創造マネジメント研究科に入学しました。私は授業時に戦後日本におけるポーランド人宣教師の慈善活動を始めとして、日本とポーランドを結んだ人道支援の歴史を紹介したりします。そうすると吹浦さんは「はいはい」と頷きながら、その事実が未だに記憶に新しいような雰囲気です。私が歴史研究として記録してきた慈善活動、人道支援は実践者の吹浦さんから見れば長年やってきた、日常的な仕事の一端でした。AAR Japan は特定の宗教に関係ないNGOですが、違う看板でもキリスト教的な隣人愛をあれだけ実践してきた方が現代日本にいるという、印象深い出会いになりました。

吹浦さんが卒業してからしばらくの2021年のことですが、私は特別研究休暇を得てポーランドへ子連れで一時帰国し、ワルシャワ郊外にある汚れなき聖母修道女会学校附属幼稚園に子どもを預けました。限られた時間でもポーランド語とポーランド文化と共に、キリスト教を集中的に学ぶ機会を得ました。子どもはチャペルも園庭もある環境に恵まれた学校で、シスターの温かい指導を受け毎日お祈りしたり遊んだり勉強したりし、私はワルシャワ大学に籍を置き研究をする毎日を送りまし

ウクライナに発送される物資の準備、
2022年3月2日。汚れなき聖母修道女
会のポーランド・ワルシャワ学校法人提供。



た。そしてあの当時、息子がお世
話になった汚れなき聖母修道女会
が、戦前はポーランド領、現在は

ウクライナのテルモピリ州ヤズウォヴィエツで創設され、現在もその修
道院の運営を続けていて、ウクライナと長く深い関係があることを知っ
てはいましたが、あまり意識していませんでした。

2022年2月上旬に日本に戻ってきましたが、その下旬に周知の通り、
ロシアがウクライナに侵攻しました。その後数日で、隣国のポーラ
ンドに渡る戦争難民が100万人単位にのぼることが予想されました。つま
り、今回の戦争は第二次世界大戦後最大の難民危機につながる、との
こと。そのニュースで心を痛めた私に、ほぼ同時に二通の連絡が届き
ました。一本目のメールは息子がワルシャワで通っていた学校の PTA
メーリスからの手紙—— 汚れなき聖母修道女会学校校舎が緊急避難所
になり、ウクライナ難民親子が30組ほど滞在しているので物資支援を
ください—— という依頼でした。なお、ウクライナ・テルモピリ州の
修道院にも国内難民親子30組程が身を寄せ、その援助も求められてい
ると。それとほぼ同時に、久しぶりに吹浦さんからの連絡。すでに16
カ国で活動している AAR Japan ですが、中東欧に入るのは初めてなの
で、現地で人道支援受け入れができる組織・団体と繋げる相談のためで
した。私はさっそく息子が通った学校とその経営している修道女会を紹
介。その結果、戦争勃発半年後もポーランド・ウクライナの両修道院
に駆け込んだ難民家族への日本からの温かい支援が続いています（詳細
は AAR Japan の活動報告が随時更新されている同団体のウェブサイト <https://aarjapan.gr.jp/emergency/2022ukraine/> を参照）。日本の NGO とポーランドの汚れな
き聖母修道女会とウクライナ難民を、私を用い繋げてくださった神様に
感謝です。